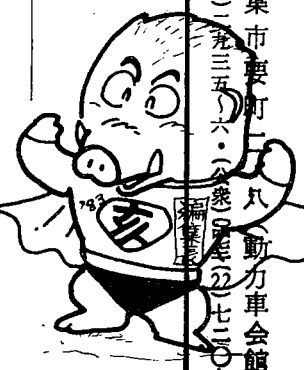


日刊 動勞千葉

83, 1, 10,
No. 1237

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市東町五丁目八番動力車会館
(鉄道二五三三〇六・二五三三〇七)



決死覚悟

一九八三年
年頭に当たって

全ての組合員の皆さん、共に闘う全国の『日刊』読者の皆さん、いよいよ胸おどる闘いの年一九八三年が明けました。想い返せば、あの「石橋問題」に示される三里塚闘争破壊同盟解体攻撃と、又、一方、「国賊」「ヤミ・カラ」キャンペーンにみられるような国鉄労働運動解体攻撃の荒波にもまれて明けた昨八二年——この一年間の厳しい闘いを通して、私たちはここに今たくましく成長し、勝利への展望をがっちりとしめてきました。しかし、又、同時に、この八三年を私たちは、これまで経験したことのないような世界的な激動の年、そして、更に厳しい試練を課す激突的闘いの年とみななければなりません。

反動中曾根内閣を打倒しよう

この「攻撃の激しさ・凶暴さ」と表裏一体である、敵の「ぜい弱性・破綻性」という本質は、中曾根内閣とその攻撃の中に鮮明に表われています。

新年早々の一月三日、中曾根は、「日本の戦後三六年が変わる激動の年だ」と懸案の反動諸攻撃を、人民の激しい抵抗は承知の上で「すべてやるべきことはどしどしやる」と公言しました。そして直ちに防衛費「GNP一%枠」突破宣言をもって労働者・人民に挑戦してきています。

金権腐敗の田中角栄を唯一の頼みとし、人民の反撃を警察権力で暴力的に抑えつけること以外になんの正義も説得性も持ち合わせていない「特攻隊」的中曾根体制「軍大化と改憲、行革と増税」の中曾根体制の姿こそ、今日の敵の泥沼的危機と凶暴化の鮮明な表われであり、人民の側にこそ正義と勝利があることを示しています。

八三年の闘いの第一の基軸として、この反動中曾根内閣打倒をすすめる必要があると考えます。四月統一地方選—船橋市議選—中江必勝の闘いはその重要な一環をなすものといえます。

二期策動に最後のとどめを！ 三・二七大爆発へ——

闘いの基軸の第二は、軍大化・改憲攻撃そのものとしてある三里塚二期着工を粉砕すること、それを軸に反戦・反核闘争の爆発をきりひらいていくことです。

すぐる一年間、政府・公団はあらゆる卑劣な手段をも使って、「八二年・用地問題解決（—反対同盟解体—総条件派化）—八三年二期着工」の激しい攻撃をかけてきました。反対同盟と支援共闘の仲間は長期にわたる身を挺した激闘によって、もののみごとにこれを撃破しました。今日、不屈の反対同盟は、再三にわたる革マルのうす汚いデマ攻撃をはねとばし、闘う体制を一層強化し、最大の試練たる「成田用水」攻撃をはねかえしつつ、「二期着工策動にとどめをさせ」を合言葉に、来る「三・二七全国総決起集会」の大爆発にむかって、すでに全国に檄を発し、意気高く闘い進んでいます。

40万国鉄労働者の怒りの大決起かちとろう！

闘いの基軸の第三は、今こそ全国四〇万国鉄労働者の怒りをとき放つ国鉄決戦の大爆発を、思いっきりかちとっていかうということです。この間、私たち国鉄労働者は自らの血を流し、汗と泥にまみ

『日刊』編集委員会を代表して.....



.....教宣部長 片岡一博

れて全力で闘う中で、怒りを倍加し、しぶとく鍛えられてきました。「57・11ダイ改」をはじめとする一連の昨秋季年末闘争の高揚—とりわけ国労二五万の仲間の偉大な決起として開始された大流動化—に確信をもって、八三年を大胆にうって出て闘おうではありませんか。この三月にも敵は「国鉄再建監理委設置法案」の強行を狙っています。よかろう！くるならこい！私たちは、逆に、戦後日本階級闘争の最も強力な基軸部隊であるわが国鉄労働者四〇万の実力で、日本労働運動の今日の危機を突破し、つくりかえてやろうではないか。「83年3月」こそ、わが最強の部隊「三里塚闘争」と「国鉄労働運動」が固く結びついて猛爆発をかちとり、反動中曾根内閣をガタガタに追いつめていく絶好のチャンスとなることはまちがいありません。

「本部」革マル粉砕・一掃 —動労大改革を！

八三年の闘いの第四の基軸は、動労「本部」革マル反動分子を粉砕・一掃し動労大改革を決定的におし進めていくことです。

「ブルトレ」「現協」「パス」「57・11ダイ改」……いずれの闘いにおいても、完全に敵側の尖兵になり切った敵対・裏切りの限りを尽した動労「本部」革マル反動分子との激突ぬきに闘いの前進はありえなかつたではないか。

又、今日、この極悪な反動分子は、闘う労働者に敵支配階級と一体となって襲いかかるといいうフアンストとしての本性をさらけ出しています。その一方で、三里塚反対同盟にデマ攻撃までかけて権力・公団の手先を買って出ているのです。

「労働者・人民の敵（—動労）革マルを粉砕・一掃せよ！」は、全国・全戦線の闘う労働者・人民の圧倒的世論であり、今や「天の声、地の声」と断言できます。

八三年の勝利もぎとる、紙の弾丸を！

こうして今八三年は、階級的激突を迎えたといっても過言ではありません。そしてこの激突に、私たち動労千葉一三〇〇は自己の大なる飛躍をかけて、労働者・人民の未来をかけて、胸を張って敢然と突入し、闘って闘ってしぶとく勝利しぬこうではありませんか。一九八三年冒頭、こうした情勢を前に、私たち『日刊動労千葉』編集委員会は、すべての力量を出しきって、皆さんと共に闘いぬくと共に、日々の闘いの糧（かて）となるよう一号一号を一層の奮闘・精進をもってこの「紙の弾丸」を全国にむけ送り続けていきたいと思えます。

一九八三年 闘春

旗開きに結集しよう！
一月十四日 十三時
船橋・三田浜楽園ホテル

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！